

「鯖街道」日本遺産に認定される

平成27年4月24日(金)、文化庁は日本遺産の第一弾として国内で18件を選びました。

福井県では、小浜から京都に鯖を運んだ鯖街道を中心とした「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道」が選ばれました。
(小浜市と若狭町)

国内外の旅行者に地域の宝をアピールし、観光振興につなげるのが狙いです。

今回は40都府県から83件の申請があり、「ストーリー性」があることを重視して選び、選ばれた自治体に対し、案内看板設置やガイド育成費用を補助するという事です。

18件の中に選ばれた小浜市はこの日、いずみ町商店街で市長と共にお祝いをわかちあう場を設けました。

お祝いに駆け付けた市民は約200名で、小浜西組地区の住民も参加しました。

松崎市長の喜びのご挨拶に続き、浜っ子こども園の園児代表がくす玉を割り、園児全員でダンスを披露して、祝賀ムードが盛り上がりました。

その後、松崎市長は市民の人達と若狭町の森下町長にたすきを渡すべく若狭町熊川宿へ出発しました。今後、若狭町と手を取り合って、観光振興につなげていかなければいけないと思います。



子ども御輿やヨサコイでお祝いする園児



日本遺産

地域の有形、無形の文化財をパッケージで認定し、観光振興などの地域活性化に役立てる新事業。

政府は2013年、日本文化を海外に売り込む「クールジャパン」戦略の一環として創設を打ち出した。文化財そのものではなく、伝統や風土に根差した「ストーリー」が認定対象となる。一つの市町村内で完結する「地域型」と複数にまたがる「ネットワーク型」がある。

(福井新聞 NEWSの言葉より)



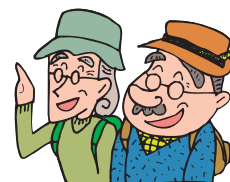
JAえちぜん武生 年金日帰り旅行 小浜へ来られる

NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」にちなみ、吉田松陰（山口県萩市生まれ）と交流があった梅田雲浜（福井県小浜市生まれ）の誕生地へ行くこと、日帰りの旅（梅田雲浜勉強会）が実施されました。

この旅行を計画されたJA越前たけふのスタッフの方は、小浜へ下調べにこられ、旅行の資料（しおり）を作成されました。その資料を見せていただいて興味深い記事がたくさんありました。

例えば春を告げる小さな魚が産卵のため海から川へ遡上する時の漁を、福井県小浜市ではイサザ漁、山口県の萩市ではシラウオ漁といい、この小さな魚は同じ魚でも呼び名が違う・・・など楽しい内容満載の資料でした。

一行は総勢約200名。3日間（5/16・5/17・5/21）に分かれて来浜され、小浜西組散策も組み込まれていました。



小浜町並み保存資料館や八幡神社周辺を散策される一行（若狭の語り部さんのガイド付きです）

若狭歴史博物館⇒御食国若狭おばま食文化館⇒雲浜小学校（梅田雲浜の銅像）⇒昼食⇒西津松源寺（梅田雲浜の墓）⇒八幡神社と移動され、その後小浜町並み保存資料館へ立ち寄り、小浜公園（梅田雲浜先生の碑）の方へ行かれました。

町並み保存資料館では細長い町家の敷地、石室に皆様が興味をもたれ、それに加え家庭用の電気メーターが玄関のすぐ横あたりに取り付けられていることに関心をもたれました。「家屋がお隣と壁1枚分しかなくて、この場所にしか付ける所がない」と説明をさせていただき、納得していただきました。



小浜公園にある梅田雲浜の碑

投稿コーナー



町並み月報に地域住民が自由に投稿できるコーナーです。協議会までどしどしお寄せください。（町並み保存資料館ポストへ投函ください。）

平成27年4月30日（木）はとても良いお天気でした。高浜中学校2年生約30名が春の遠足で町並み保存資料館に来てくれました。

予定時刻の30分程前に当校の女性の先生が立ち寄って下さり、「後ほど生徒たちが班に分かれてやってきます。勝手なことを言ったり、失礼なことをするかもしれません。質問をすれば答えてやってください。よろしくお願いします。」と挨拶をされて出て行かれました。

数十分すると第一グループが入ってきました。中学生が手に持っていた用紙にはいくつかの課題があって、その中の一つに町並み保存資料館のクイズがありました。「町並み保存資料館の奥にあって、味噌や醤油を保管したり、火事が起こった時に貴重品を入れる場所を何といいますか」というものでした。「それは石室と言います。」と言ってその場所へ行くと「ファーすごい！入っていいですか」「石室はどんな字ですか」「室町時代の物ですか」（笑い）「涼しい、涼しい」と口々に話していました。次から次へ案内し説明をさせていただきました。

終盤のグループの女子生徒に「遠足は楽しい？」





と尋ねると「楽しいけど暑いです。これから歩いて西津の運動公園へ行きます。そこで昼食です」と答えてくれました。

皆さん、お行儀の良い生徒ばかりでとても楽しそうにみえました。



* * * * *

平成27年5月9日（土）連休明けの土曜日午後のことです。デイサービス“はな”の通所をされている90歳前後の女性3名と男性職員の方が来館下さいました。

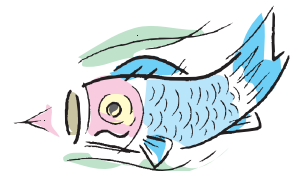
職員さんは「雛人形はよく見かけるのですが、五月人形はあまり飾っているところがなく、ここで飾っているのを知って、寄せていただきました」と言われ、中に入ってもらいました。「立派な五月人形。自分の家にもありました」とか「鯉のぼりは上げたり、降ろしたりが大変で、各家庭では見なくなりましたね」とか話しながらゆっくり

ご覧頂いていました。

帰り際に一人の方が「私のところも100年以上たった家でこんな感じです。でも大黒柱はもっと大きく自分が両腕で抱えるくらい大きいです。」と言われ、そんな大きな大黒柱を使ったお家を見せていただきたいと思いました。

もう一人の方は「若い頃この家に遊びに来たことがあり、とても懐かしいです。」と話して下さいました。それには職員さんもびっくりされて「そんなことを思い出してもらってよかったです。何年くらい前のこと？」と聞くと「40年前、50年前くらいかな？」と返事がありました。

私も意外な話をきかせてもらって、何だか嬉しい気持ちになり、お別れをしました。



館内に展示された鯉のぼりと五月人形